

テーマパネル5

ひだか へん せい たい けい せい
日高変成帯の形成

その1
常設展示室



- 1 東北海道と西北海道の間が狭まる
- 2 島弧が衝突し、上部層が下部層の上へ積み重なる
- 3 上部層と下部層から接合帯がユーラシアプレートの東縁部へのし上がる

古第三紀始新世の末期，渡島帯と空知－エゾ帯が属する西側の島弧－海溝系と常呂帯・根室帯が属する東側の島弧－海溝系とが衝突の時期を迎えました。

東西2つの島弧－海溝系の構造帯の中間部には，現在の日高山脈（日高変成帯）が見られます。これは，島弧性地殻断面を有する「主帯」と海洋性地殻断片である「西帯」の接合衝上体からできています。

主帯は，砂泥質岩を主体とする「上部層」と，塩基性岩を主体とする「下部層」に分けられ，その全層厚は26～28 kmに達すると推定されています。この異常とも言うことができる地層厚化は，通常の堆積場ではおこりません。

東西2つの島弧が衝突する以前，その間には，海山付加体や前弧海盆～海溝内側斜面堆積物，深海底堆積物がありました。そそれが2つの島弧－海溝系の接近・衝突によって構造的に複合することにより，地層が厚化していったと考えられます。それは，ちょうどテーブルの上にはばらまかれたランプをまわりから集めるようにしてどんどん厚くなっていく，そういうようなことが想像できます。

(地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸)